

脇役男子の言語学

－スネ夫やジャイアンはどのように話すのか－

秋 月 高 太 郎*

The language of the supporting-boys' characters

Kotaro Akizuki

日本のマンガに登場する脇役男子キャラクターは「知性派男子」と「野生派男子」という二つのタイプに分けることができる。知性派男子は「はく」「きみ」「さ」「たまえ」「やあ」「ふっ」といったことばを用いるのに対し、野生派男子は「おれ」「おまえ」「ぜ」「よお」「がはは」といったことばを用いる。知性派男子のことばづかいは、戦前の「書生」キャラクターのそれにさかのぼることができる。一方、野生派男子のことばづかいは、戦後に登場し、現在では「ヤンキー」キャラクターに引き継がれている。

キーワード：役割語、脇役キャラクター、男ことば、はく、おれ

1. はじめに

日本のマンガには、個々の作品を越えて、共通した特徴をもったことばづかいをするキャラクターが登場することがある。以下の(1)は、それぞれ、年代も、作者も、掲載雑誌も異なるマンガに登場するキャラクターのセリフである。

- (1) a. わしはお茶の水博士 ここは救命艇の中じゃ (手塚治虫『鉄腕アトム』)
- b. おまえたちの両親をうばったわしの罪ほろほしじゃ…
(永井豪『マジンガーZ』)
- c. わし相手では、所詮稽古ぢゃ! (浦沢直樹『YAWARA!』)
- d. ああ一郎か わしじゃよ (さくらももこ『ちびまる子ちゃん』)

(1a)は手塚治虫『鉄腕アトム』に登場するお茶の水博士、(1b)は『マジンガーZ』に登場する兜十蔵博士、(1c)は『YAWARA!』に登場する猪熊滋五郎、(1d)は『ちびまる子ちゃん』に登場するさくら友蔵のセリフである。この4人のキャラクターのセリフには、自称詞に「わし」を用い、文末に終助詞「じゃ」「ぢゃ」を用いるという共通点がある。この4人に限らず、このようなことばづかいをするキャラクターは、日本のマンガに数多く登場する。彼らはみな年老いた男性のキャラクターであり、金水(2003)は、彼らが用いることばづ

2014年3月24日受理
*尚綱学院大学 教授

かいを〈老人語〉(または〈博士語〉)と名づけた。ただし、ここで言う〈老人語〉とは、実際の現実世界に存在する年離れた男性のことばづかいを指しているのではないことに注意されたい。現実には、(1)のように話す老人(または博士)は、おそらく存在しないであろう。〈老人語〉とは、マンガや小説のような非現実(ヴァーチャル)の世界に登場するキャラクターのことばづかいを指している。これが、金水(2003)の言う「役割語」である。

(1)のようなことばづかいをするキャラクターには、もう1つ共通点がある。それは、彼らはみな脇役だということである。役割語を用いるのは、主役のキャラクターではなく、もっぱら脇役のキャラクターである。なぜ脇役のキャラクターは役割語を用いて話すのだろうか。金水(2003)は次のように述べている。

脇役とは、すなわち読者があまり関与する必要のない人物なので、カテゴリーベースのモードで十分であり、このモードの処理に適するように、作者はステレオタイプに従った人物の描写をすれば十分である。(p.43)

すなわち、脇役のキャラクターには、主人公のキャラクターに与えられるような個性的な特徴づけは不要であり、むしろ、登場するやいなや、どのようなキャラクターであるかが読者にただちに理解できるように描かれることが必要なのである。たとえば、老人の脇役キャラクターは、たいてい、容姿が老人のように(白髪である、白ひげをはやしている、老眼鏡をかけている、等)描かれることに加え、「わしは〜じゃ」という〈老人語〉を話すキャラクターとして描かれる。読者は、そのキャラクターの姿形だけでなく、ことばづかいにも繰り返しふれることによって、老人のステレオタイプを形成していく。その結果、読者は、たとえ初登場の脇役キャラクターであっても、その姿形やことばづかいから特定のステレオタイプを呼び出すことで、どのようなキャラクターであるかが、ただちに理解できるのである。

本稿では、マンガに脇役として登場する男の子のキャラクター(以下、脇役男子キャラクター)に注目し、彼らがどのようなことばづかいをするのかを明らかにする。そして、彼らのことばづかいが、現代日本語の役割語としての〈男ことば〉にどのように位置づけられるのかを考察する。

2. 脇役男子キャラクターの分類

マンガに登場する脇役男子キャラクターと言えば、『ドラえもん』のスネ夫(骨川スネ夫)とジャイアン(剛田猛)を思い浮かべる人は多いだろう。マンガ作品としての『ドラえもん』が初めて登場したのは1969年末に発売された小学館の学習雑誌においてであるが、以後、さまざまな雑誌に掲載され、さらに連続テレビアニメシリーズや劇場用アニメ作品も繰り返し製作されており、現在でも多くの世代の人々に親しまれている作品であることは言うまでもない。加えて、『ドラえもん』は数多くの作家に影響を与えており、スネ夫とジャイアンの2人の脇役男子を参考にしたと思われるキャラクターは、多くのマンガやアニメ作品に見ることができる。そこで本章では、この2人を手がかりに、脇役男子キャラクターの分類を試みる¹⁾。

2.1 「知性派男子」キャラクター

スネ夫と同じタイプに属するキャラクターに、『ちびまる子ちゃん』の花輪くん（花輪和彦）や『クレヨンしんちゃん』の風間くん（風間トオル）がいる。彼らには多くの共通点がある。

第一に、外見において、彼らは細身であり、顔は細面で、髪の毛は（男子にしては）長髪である。また、服装にも気を配るおしゃれであり、自分を美形だと思っているふしがある。スネ夫は、鏡を見つめて「いつ見ても……。いつまで見てもあきないなあ、ぼくの顔は。美しいということばはぼくのためにあるんだなあ。」と言う（『秘スパイ大作戦』1巻収録）。風間くんは、泥棒ごっこをするときに犯人役になり、しんのすけに「下着ドロボーとゆうことで」と言われたことに強く抵抗して、「もっと他のにしてくれ。このボクのイメージにあった犯人像に」と言う（『オラの新発明 ××ごっこはたのしいな編』6巻収録）。また、花輪くんは、しばしば、手で髪をかきあげて、伏し目がちの表情で語る（図1参照）。彼らは共通して、自分の外見に自信があり、ナルシストの傾向がある。



図1 髪をかきあげる花輪くん『ちびまる子ちゃん』3巻p.77

第二に、家庭環境において、彼らの家は金持ちであり、豪邸や高級マンションに住んでいる。家族で海外旅行にもよく出かけ、外国人の友だちがいる。スネ夫はのび太たちにしばしば外国旅行のお土産を自慢する²⁾。花輪くんは外国旅行に行くためによく学校を休み、まる子たちをうらやましがらせる。風間くんは幼稚園児でありながら英語塾に通っており、しんのすけたちの前でもしばしば英語の練習をしている（図2参照）。彼らは共通して、金銭的に恵まれた家庭の子どもである。



図2 英語の勉強をする風間くん『クレヨンしんちゃん』9巻p.116

第三に、彼らは勉強家で頭がよい。スネ夫は、一人だけテストで百点をとってしまったため、のび太やジャイアンに見つからないようにその答案を山の中に隠す（『大ピンチ！スネ夫の答案』第28巻収録）。花輪くんは、多くの習い事をしており、通信簿はオール5である³⁾。風間くんは、前述したような英語塾以外にも、「いろいろな塾や教室に通っている」（公式サイトの記事）。彼らは、たまに塾へ行くことが嫌になることがあっても、おおよそ親の言いつけを守って、塾通いを続けている。

第四に、彼らには女の子の友だちが複数おり、しばしば一緒に遊んだり、女の子に対してやさしい言動や気づかいができる。スネ夫は、女子の友だちを家に招いて、自慢話をしたり、一緒にゲームを楽しんだりしている（図3参照）。花輪くんは、まる子の誕生日に、宅配便でバラの花束を届ける（『まるちゃんお誕生会をひらく』の巻』4巻収録）。風間くんは、女の子と一緒に塾へ行くところを、しんのすけに見つかったからかわれる（図4参照）。彼らは、い

いわゆる「フェミニスト」の資質を備えていると言える。

第五に、彼らは普段はクールを装っているが、マザコン的な一面を見せることがある。スネ夫の母は、スネ夫のことを「スネちゃま」と呼んで過剰な愛情を注いでおり、スネ夫自身もそれを受け入れているふしがある。花輪くんも、仕事で外国にいる母に「カズちゃん」と呼ばれ、外国に帰る母を見送るときに、こっそり涙を流している（『花輪クンちに来た友人帰る』の巻）8巻収録）。風間くんは、ママにおしりをふいてもらっていることを、しんのすけたちにうっかり口にしてしまったことがある（『ママとしんちゃんのお約束条項……!?編』6巻収録）。彼らの母親はいわゆる「セレブ」であり、彼らは母親の愛情を一手に引き受けている⁴⁾。

以上のように、スネ夫、花輪くん、風間くんという脇役男子キャラクターには、作品を越えて、数多くの共通点がある。彼らのような脇役男子キャラクターは、数多くのマンガやアニメ作品に見いだすことができる。彼らのようなタイプの脇役男子キャラクターを「知性派男子」と名づけよう。

2.2 「野生派男子」キャラクター

ジャイアンは、スネ夫のような「知性派男子」とは対照的な脇役男子キャラクターである。ジャイアンと同じタイプに属するキャラクターに、『ちびまる子ちゃん』のはまじ（浜崎のりたか）や関口（関口しんじ）がいる。彼らにも多くの共通点がある。

第一に、外見において、彼らは美男子ではない。体格は太めであり、他の同級生より大きい。ドラえもんの道具「きこりの泉」に落ちて美形になってしまった「きれいなジャイアン」を、「これですか。」と問われたのび太とドラえもんは「いえ、もっときたないの。」と答えている（『きこりの泉』第36巻収録）。はまじは、まる子が浅草寺の煙を頭につけようとするのを見て「あつオレも」と言うと、野口さんに「顔も忘れずにね……」とつつこまれている（『まる子浅草へ行く』の巻）13巻収録）。ジャイアンもはまじも関口も丸顔に短髪で、あまり髪型や服装に気を配っている様子はない。作者による登場人物紹介でも、はまじと関口は「クラス内B級男子」である（図5参照）。

第二に、彼らはあまり裕福な家の子ともではない。ジャイアンはよく、母親に家の店の手伝いをさせられている（図6参照）。はまじは、花輪くんの家のパーティに招かれた後で、母親に「おい、かあさん、な



図3 女子たちと遊ぶスネ夫『ドラえもん』23巻p.72



図4 しんのすけにからかわれる風間くん『クレヨンしんちゃん』5巻p.101

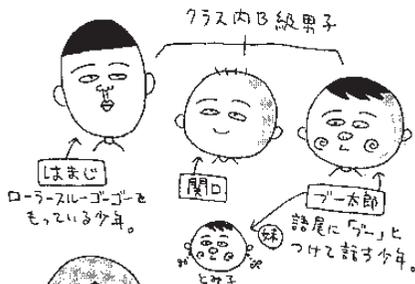


図5 B級男子のはまじと関口『ちびまる子ちゃん』12巻p.5

んでうちにはパーティールームがないんだよ」と聞き、「パーティールーム？ねぼけたこといってんじゃないよ」と返されている（『花輪クンちに来た友人帰る』の巻）8巻収録）。

第三に、彼らはあまり勉強ができない。そもそも彼らは勉強すること自体が好きではない。ゆえに、成績を上げるために塾に通ったりもしない。ジャイアンは、テストでよくのび太と同じように悪い点を取っている。はまじは、算数のテストで「あーいやだな。分数の計算苦手だもん」というまる子に、「オレ勉強なんかしないもんね」と言っている（『まる子ノストラダムスの予言を気にする』の巻）8巻収録）。彼らはみな、塾へ通うぐらいなら、外で元気に遊んでいるというタイプである。

第四に、彼らはよく女の子をいじめたり、からかったりする。関口は、自転車にうまく乗れないまる子をからかって笑いのものになっている（『まるちゃん自転車の練習をする』の巻）3巻収録）。このような言動は、彼らが女の子に対してシャイであるためともみなせよう。ジャイアンもしばしば、しずかちゃんに対して乱暴な言動を行うことがある（図7参照）。

第五に、彼らは、けんかが強かったり、人を笑わせることが得意だったり、勉強とは対照的な才能に秀でているところがある。ドラえもんにすごいいじめっこがいると聞いたジャイアンは「おう、強けりゃ強いほどはりあがあるぞ」と言う（『ジャイアン反省・のび太はめいわく』第36巻収録）。はまじは、よくモノマネの芸を披露して、クラスメイトたちを笑わせている。

以上のように、ジャイアン、はまじ、関口という脇役男子キャラクターには、作品を越えて多くの共通点がある。彼らのような脇役男子キャラクターは、数多くのマンガやアニメ作品に見いだすことができる。彼らのような脇役男子キャラクターを「野生派男子」と名づけよう。

2.3 脇役男子キャラクターの二大ステレオタイプ

スネ夫のような知性派男子とジャイアンのような野生派男子は、多くの点において対照的な特徴を有している（図8参照）。そこには、現実の男子のありうべき姿が反映していると考えられる。

高井・古賀（2008）は、子どもを賞賛する際には、「子ども志向」と「大人志向」という対立する2つの方向性があることを指摘している。「子ども志向」とは「子どもが純粋無垢であったり愛くるしい存在であったりすることを美化し、強調するような語り」であり、「大人志向」とは「子どもがしっかりしていること、明確な目的をもっていることに高い価値を与えるような語り」である。高井・古賀（2008）によれば、このような「子ども志向」と「大人志向」の語りとともに、1950年代前後の健康優良児表彰事業の特集記事の中で繰り返し見ることがで



図6 店の手伝いをさせられるジャイアン『ドラえもん』2巻p.93



図7 しずかちゃんを脅すジャイアン『ドラえもん』14巻p.16

きるといふ⁵⁾。戦後のマンガが、このような子どものありうべき姿の語りに影響を受けたであろうことは想像に難くない。すなわち、「子ども志向」は野生派男子のキャラクターとして、「大人志向」は知性派男子のキャラクターとして、それぞれ、マンガの世界に具現化されたと考えられる。

脇役キャラクターが複数登場する作品において、彼らに対立する特徴を備えたキャラクターとして登場することは、キャラクターの描き分けという点からも首肯できる。児童向けのマンガにおいては、似たようなキャラクターを微細な人物描写によって描き分けるといった手法が

とられることはまれであり、脇役キャラクターには、ステレオタイプに従った人物描写が与えられるのが常である。その結果、似たような特徴をもつことによるキャラクターの「かぶり」を避けるためにも、脇役キャラクターは極端な特徴をもったキャラクターとして立ち現れることになるのである⁶⁾。

しかし、児童向けマンガであっても、連載が長期化して作品世界が広がっていくと、登場する脇役キャラクターにもバリエーションが求められるようになっていく。『ドラえもん』の出木杉くん（出木杉英才）や『ちびまる子ちゃん』の大野くん（大野けんいち）は、知性派男子の特徴の多くを満たしながらも、ナルシストやマザコンといった特徴を欠いた「イケメン」キャラクターである。また、知性派男子から、美形やクールといった特徴を取り除くと、『ちびまる子ちゃん』の丸尾くん（丸尾末男）のような「ガリ勉」キャラクターになる。一方、野生派男子から野性的やワイルドといった特徴を取り除くと『ちびまる子ちゃん』の小杉（小杉太）のような「デブ男」キャラクターになる。彼らは、知性派男子または野生派男子の下位カテゴリーに属する脇役男子と考えられる。

以上の考察にしたがい、本稿では、知性派男子と野生派男子を、脇役男子キャラクターの二大ステレオタイプとみなす⁷⁾。次章では、彼らのことばづかいを考察する。

3. 知性派男子と野生派男子のことばづかい

3.1 知性派男子のことばづかい

知性派男子のことばづかいの特徴から見てみよう。彼らには、ことばづかいにおいても共通点がある。第一に、彼らが自分のことをどう称するか見てみよう⁸⁾。

- (2) a. ぼくなんかこの下はシャツ一枚だ。(ドラ1)
- b. ぼくはなんでも清らかなものが好きなのさ。(まる子2)
- c. 隊長はボクしかないだろう(クレしん11)

(2a) はスネ夫が寒がりののび太に対して言うとき、(2b) は花輪くんがまる子に自慢げに

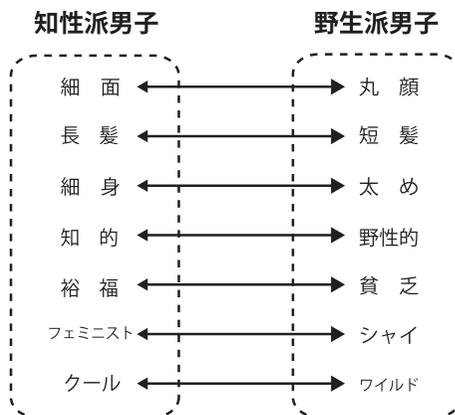


図8 知性派男子と野生派男子の特徴

語るとき、(2c)は風間くんがしんのすけたちと探検ごっこをするときのセリフである。彼らは、自分のことを「ぼく」と称している。彼らは、友だちとの会話においても、両親や先生のような目上の人物との会話においても、「ぼく」で自分を称する。彼らにとっては「ぼく」がデフォルトの自称詞である。

また、この「ぼく」は、助詞の「は」に続くとき、音韻的融合を起こして「ほかあ」という音形になることがある。以下はスネ夫がのび太たちに自慢げに語るとき、のセリフである。

(3) べつに。ほかあ、ふだんから豊かにくらしてるから。(ドラ1)

この「ほかあ」という音形には、鼻にかけた(キザな)ニュアンスが伴う。これには、知性派男子の「ナルシスト」という資質を演出する効果がある。

第二に、彼らが聞き手を称するときのことばを見てみよう。

- (4) a. きみたちもほしいだろうけど、ま、見るだけでがまんしな。(ドラ25)
b. キミ何やってるんだい… やめたまえ 目をうるませるのは…(まる子11)
c. 君がドキドキしてどーすんだよ(クレしん10)

(4a)はスネ夫がのび太たちに自慢しているとき、(4b)は花輪くんが勘違いをしている永沢くんに忠告するとき、(4c)は風間くんがラブレターをもらったしんのすけを見てドキドキしているマサオくんにつっこむときのセリフである。このように、彼らは、友だちのことを「きみ」と称している。しかし、彼らを用いる対称詞は「きみ」だけではない。以下の例では、友だちを「おまえ」と称している。

- (5) a. ぼくね、きょうから、おまえなんかにペコペコしないの。(ドラ4)
b. おまえがフラフラしてるからだろーっ(クレしん10)

(5a)では、ドラえものの道具「友情カプセル」を手に入れて、友だちの心をコントロールできるようになったスネ夫がジャイアンを「おまえ」と称している。(5b)では、刑事ごっこをしていて、女子大生に見とれて犯人役を見失ったしんのすけにキレた風間くんが、しんのすけを「おまえ」と称している。これらの例から次のようなことが言える。知性派男子がを用いるデフォルトの対称詞は「きみ」であるが、相手を見下したり、感情が高ぶっているときには「おまえ」を用いることがある。

また、彼らは自分の母親を「ママ」と称する。

- (6) a. ママにどんなにしかられることか。(ドラ28)
b. ママ…一緒に寝てもいいかな(まる子8)
c. ただいまママー(クレしん4)

(6a)では、スネ夫がのび太たちと話しているとき、自分の母親のことを「ママ」と称している。(6b)では花輪くんが、(6c)では風間くんが、それぞれ自分の母親に「ママ」と呼ぶ

かけている。母親を「ママ」と呼ぶ男子には「マザコン」のイメージがある。知性派男子とその母親は、母親を「ママ」と呼ぶ息子と、息子を「～ちゃん」や「～ちゃま」といった愛称で呼ぶ母親の組み合わせとして描かれるのが常である。

第三に、彼らが用いる終助詞を見てみよう。

- (7) a. ほくとあの子は、スネちゃんつうちゃんとよびあう仲なのさ。(ドラ 37)
 b. ボクは幼少の頃は子守唄がわりにビートルズをきいていたのさ (まる子 11)
 c. ボクなんか注射ぐらいぜんぜん平気 痛くないのさ。(クレしん 6)

(7a) はスネ夫がのび太たちにアイドルと知り合いであることを自慢するとき、(7b) は花輪くんがまる子たちにビートルズのレコードを赤ちゃんの頃から聞いていたことを語る時、(7c) は風間くんが予防注射を怖がるしんのすけたちの前で威勢を張るときのセリフである。彼らは、文末に終助詞「さ」を用いて話すことがある。終助詞「さ」が付加された文には、話し手がその文が表す内容に対して自信をもっているニュアンスが伴う。知性派男子が「さ」を伴った文をしばしば用いるのは、彼らの「知的」「裕福」といった資質を演出する効果がある。

第四に、彼らが相手に行動をうながしたり、禁止したりするときの表現形式を見てみよう。

- (8) a. 永沢君 キミはもうマスターしただろ? みぎわ君に教えてあげたまえ
 (まる子 8)
 b. やめたまえ丸尾くん まちがっているのはキミの方さ (まる子 3)

(8a) は護身術を教えた永沢くんに今度はみぎわさんにそれを教えるように言うとき、(8b) は学級委員の選挙でえびすくんに投票するというクラスメートを間違っていると言う丸尾くんに対する花輪くんのセリフである。花輪くんは、クラスメートに対して、この「たまえ」という表現をよく用いる。「たまえ」は、江戸時代の武家ことばにさかのぼることができるが(金水 (2003))、今日では、現実には用いられない、ヴァーチャルな世界でのみ使用される役割語と言えらる。「たまえ」には、「おじさん臭い」「古風な」といったイメージがあり、そのような人物像を演出するために用いられる。金水 (2003) は、このような「たまえ」を、会社の上司のようなキャラクターが用いる<上司語>と位置づけている。しかし、(8)の例が示すように、「たまえ」は、「おじさん」キャラクターや「上司」キャラクターだけでなく、一部の知性派男子によっても用いられる役割語である。「たまえ」の使用は、彼らに大人びたイメージを与える効果がある。

第四に、彼らが聞き手に呼びかけるときに用いることばを見てみよう。

- (9) a. やあ、サブロー うちへこいよ。(ドラ 7)
 b. やあ またせてソーリー (まる子 3)
 c. やあ 久しぶり (クレしん 2)

(9a) はスネ夫が電話で友だちを誘うとき、(9b) は花輪くんがまる子たちの前に遅れて来たとき、(9c) は風邪をひいて幼稚園を休んでいた風間くんが久しぶりに登園したときのセ

リフである。このようなとき、彼らは友だちに「やあ」と言って呼びかける。前述の「たまえ」同様、「やあ」も、現実にはほぼ用いられない、役割語の一種とみなせる。そして、この「やあ」にも「おじさん臭い」イメージが伴う。「やあ」の使用もまた、彼らに大人びたイメージを与える効果がある。

第五に、彼らの笑い声の表され方を見てみよう。

- (10) a. さくらクン よろしく…フッ (まる子1)
b. ふっ 君たちとは育ちがちがうのさ (クレしん4)

(10 a) は花輪くんがまる子に自己紹介するとき、(10 b) は風間くんが幼稚園のおとまり保育で、布団をきれいに整えるところをしんのすけたちに見せつけているときのセリフである。このようなとき彼らは、伏し目がちで「ふっ」と笑う。小野(編)(2007)によれば、「ふっ」は、「口をすぼめて息を吹く音。吹き出して笑ったりする声」を表すオノマトペである。笑い声を表す「ふっ」には、話し手が相手を見下しているというニュアンスを、または話し手が自分に酔っているというイメージを伝える。「ふっ」という笑い声は、知性派男子の自信家ぶりを演出する効果がある。

第六に、語彙選択の特徴として、彼らは必要以上に英語語源の外来語を用いるということがあげられる。

- (11) a. ヒドイのはキミさベイビー (まる子3)
b. やあ しあわせポ〜イ (クレしん4)

(11 a) では花輪くんがまる子のことを「ベイビー」と、(11 b) では風間くんがしんのすけのことを「ポ〜イ」と呼びかけている。(11) は、日本語と英語のコードスイッチングが起きている文とみなすことも可能だろう。現実世界では、コードスイッチングは、多言語使用話者同士の会話に生じることが知られている⁹⁾。役割語の視点からみたとき、このような文を使用するキャラクターは「帰国子女」「ハーフ」「西洋かぶれ」であるといった印象を与える。このような印象は、知性派男子がもつ資質と一致する¹⁰⁾。

最後にもう一つ知性派男子のこぼれの特徴をあげておこう。彼らは、相手や場面によってことばの使い分け、すなわちスタイル・シフトを行うことがある。彼らは、友だちと話すときはダ・デアル体を用いるが、先生や友だちのお母さん等、目上の人物と話すときはデス・マス体を用いる。

- (12) a. きょうは宿題がう〜んと、ど〜っさりでたんですよ。(ドラ45)
b. ちえっ 先生 こっちもスピード出ましようよ (クレしん10)

(12 a) はスネ夫がのび太のお母さんに宿題がたくさん出たことを告げ口するとき、(12 b) は風間くんが幼稚園のよしなが先生が運転する車でドライブしているときのセリフである。これらの文はデス・マス体になっている。現実において、スタイル・シフトには社会常識に関する知識が必要であり、そのような知識がまだ十分身につけていない幼い子どもには、運用困難

なスキルである。もし現実に、円滑にスタイル・シフトを駆使する子どもがいれば、私たちは彼らに対して「大人びている」「こまっしゃくれている」といった印象を抱くであろう。大人に対してデス・マス体で話す知性派男子は、彼らが大人びているというイメージを抱かせる。

以上、知性派男子のこぼづかいの特徴について見た。彼らのこぼづかいは、彼らの容姿や行動のあり方と相まって、知性派男子らしさを演出する効果をになっていることがわかる。

3.2 野生派男子のこぼづかい

次に野生派男子のこぼづかいを見てみよう。野生派男子にも、彼らに共通することぼづかいを見ることができる¹¹⁾。

第一に、彼らが自分をどのように称するかを見てみよう。

- (13) a. 見ろ、見ろ！ おれだけ百点！（ドラ 1）
b. オレももっとつけよう（まる子 13）

(13 a) はジャイアンが百点のテストを自慢するとき、(13 b) ははまじが浅草寺の煙を頭につけようとしているときのセリフである。彼らは、自分のことを「おれ」と称する。彼らは自分のことを「ぼく」と称することは決してない。金水（2010）で述べられているように、自称詞に「ぼく」を使用するキャラクターには「弱々しい」印象がある。野生派男子が「ぼく」を決して用いないのは、そのようなイメージを与えることを避けるためと考えられる。

第二に、彼らが相手を称するときに用いることばを見てみよう。

- (14) a. おまえ、いつからそんなに頭がよくなった？（ドラ 1）
b. なんだよ おまえやってみろよ（まる子 10）

(14 a) ではジャイアンが宿題をスラスラと解くのび太を、(14 b) でははまじが歌い方に突っ込みを入れたまる子を、それぞれ「おまえ」と称している。野性派男子にとっては、「おまえ」がデフォルトの対称詞である。秋月（2013 a）で述べたように、「おまえ」には「上から目線」のニュアンスがあり、野性派男子の資質と一致する。

また、彼らは自分の母親を「かあちゃん」と呼ぶ。

- (15) a. かあちゃんゆるせ。（ドラ 2）
b. たのむよ、かあちゃん（まる子 12）

(15 a) はジャイアンが店の手伝いをさぼっているところを母親に見つかったとき、(15 b) ははまじがまる子たちと家の屋根裏部屋でクリスマスパーティーをする許しをもらうときのセリフである。彼らは自分の母親を「ママ」と呼ぶことは決してない。前述したように、「ママ」と呼ぶ男子には「マザコン」のイメージがあり、野性派男子の資質とは相容れない。

第三に彼らが用いる終助詞を見てみよう。

- (16) a. おまえにそんな勇気があるとは思わなかつたぜ。（ドラ 25）

- b. オレ 大洋のファンだからな 今年も大洋を応援するぜっ (まる子10)

(16 a) はジャイアンが家出をしてきたと言うのび太をほめているとき、(16 b) ははまじがまる子たちとプロ野球の話をしているときのセリフである。いずれも文末に「ぜ」が用いられている。「ぜ」がもつ「断定的に強調する」という表現効果は、野性派男子の「ワイルド」な資質と一致する。

また、野性派男子は、文末に「ぞ」が付いた文もよく用いる。

- (17) a. おれなんか、シャツも着てないぞ。(ドラ1)
b. …読んでもらってもわかんねえぞ (まる子13)

(17 a) はジャイアンが寒がりののび太をけなしているとき、(17 b) ははまじがヒデじいにおみくじに書いてあることをよんでもらったときのセリフである。『新潮現代国語辞典第1版』(1985)の記述によれば、終助詞「ぞ」には「相手に強く言い聞かせる」表現効果がある。このような効果もまた、野生派男子らしさを表現するには有効だと言える。

第四に、彼らが相手に行動をうながしたり、禁止したりするときの表現形式を見てみよう。

- (18) a. 全員そこにならべ!! (ドラ35)
b. ジャあ今日の2時にオレンちへ来いよ (まる子12)
(19) a. とうぶん、おれのへやにいる。おふくろにみつかるなよ。(ドラ25)
b. からかうなよ、ブー (まる子8)

(18 a) ではジャイアンが野球の試合に負けた後でのび太たちに対して、(18 b) でははまじがまる子たちに対して、それぞれ動詞の命令形を用いている。また、(19 a) ではジャイアンがのび太に対して、(19 b) でははまじがブー太郎に対して、それぞれ禁止の「な」を用いている。一般に、動詞の命令形や禁止の「な」は、話し手が聞き手を自分より下位とみなしているときに用いられる。このような表現形式の使用も、彼らの「ワイルド」な資質と一致する。

第四に、彼らが聞き手に呼びかけるときに用いることばを見てみよう。

- (20) a. よう スネ夫。(ドラ4)
b. やい こらっ (ドラ11)
c. おい きのうもおもしろかったよなっ (まる子9)

(20 a) はジャイアンがスネ夫に、(20 b) はジャイアンがのび太に、(20 c) ははまじがまる子によびかけている場面でのセリフである。「よう」「やい」「おい」という呼びかけ語には、聞き手の注意を強制的に話し手に向けさせる感じがある。このような呼びかけ語の使用も、野性派男子の「ワイルド」な資質と一致する。

また、彼らは、肯定の応答詞として「おう」をよく用いる。

- (21) a. おう、親友よ、心の友よ (ドラ16)

b. おう そうだな (まる子 13)

(21 a) はジャイアンがのび太に対して、(21 b) ははまじがまる子に対して「おう」と答えている例である。「おう」には荒々しいイメージがあり、「ワイルド」な野性派男子にふさわしいことばである。

第六に、彼らの笑い声の表され方を見てみよう。

- (22) a. おれに、あやまれ? ガハハハハ。(ドラ 1)
 b. あははは ころんでやんの あはははは (まる子 3)

(22 a) ではのび太たちに謝罪を求められたジャイアンが「ガハハハハ」と、(22 b) では自動車でころんだまる子を関口が「あははは」と笑っている。小野(編)(2007)には、「がはは」は「大口をあけて笑う声」、「あはあは」は「口をあけて無遠慮に笑う声」とある。どちらも「ワイルド」な笑い方を表すオノマトペであり、野性派男子の笑い方にふさわしいと言える。

最後に、彼らが、自分より目上の人物と話すときのスタイルを見てみよう。

- (23) a. おれ しらない。(ドラ 25)
 b. ヒデじい…つまりどういう事なんだ? (まる子 13)

(23 a) はジャイアンがのび太のお母さんにのび太がどこに行ったか聞かれたとき、(23 b) ははまじがヒデじいにおみくじの内容について尋ねたときのセリフである。このように、彼らは、自分より目上の人物と話すときでもダ・ DEAL 体を用いる。つまり、相手によってことばのスタイルを変えるようなことはしない。これは、彼らがスタイル・シフトのスキルを身につけていない子どもとして造形されているというよりも、デス・マス体を用いることによって醸し出される「弱々しさ」や「やさしさ」といったイメージを避けるためと考えられる。

以上、野性派男子のことばづかいの特徴について見た。彼らのことばづかいもまた、彼らの容姿や行動のあり方と相まって、野生派男子らしさを演出する効果をになっていることがわかる。

4. おわりに

本稿では、知性派男子と野生派男子という 2 つの脇役男子キャラクターのことばづかいについて考察した。表 1 に示したように、彼らのことばづかいは対照的である。彼らは、その姿や行動のあり方ばかりでなく、ことばづかいの点においても対照的に描かれていることがわかる。

最後に、役割語としての知性派男子と野生派男子のことばづかいの流れに

	知性派男子	野生派男子
自称詞	ぼく	おれ
対称詞	きみ	おまえ
母親の呼称	ママ	かあちゃん
終助詞	さ	ぜ、ぞ
命令・禁止表現	～たまえ	命令形、～な
呼びかけ語	やあ	よお、やい、おい
笑い声	ふっ	がはは、あはは
スタイル・シフト	あり	なし
その他	外来語多用	くだけた形を使用

表 1 知性派男子と野性派男子のことばづかい

ついて触れておく。知性派男子のことはづかいは、明治時代の小説に登場する書生キャラクターが用いることばにさかのぼることができるだろう¹²⁾。書生キャラクターのことは、戦前から終戦直後のマンガに登場する「少年」キャラクターのことにひきつがれた¹³⁾。今日の知性派男子のことはづかいは、この延長上にあると考えられる。一方、野生派男子は、金水（2010）が指摘しているように、戦後、弱々しい「少年」キャラクターのカウンターとして登場してきたものと考えられる。野性派男子のことはづかいは、今日、秋月（2013 a）で述べた「ヤンキー」キャラクターにひきつがれている。現在、知性派男子と野生派男子のことはづかいは、役割語としての〈男ことば〉の下位カテゴリーを形成しているとみなせる。しかし、クレア（2013）の〈おネエことば〉も含め、〈男ことば〉の下位カテゴリーの構造や通時的な考察はまだ不十分であり、今後の課題である。

注)

- 1) 本稿では、『ドラえもん』『ちびまる子ちゃん』『クレヨンしんちゃん』の3つのマンガ作品に登場する脇役男子キャラクターのセリフを調査対象とした。これらの作品は、現在（2014年3月）、原作者によるマンガ作品の雑誌連載等を行われていないが、アニメ化され、ゴールデンタイムでの地上波テレビ放送が長期に渡って継続しているという共通点をもつ。日本のマンガやアニメ作品は、その連載や放送が長期に渡る場合、登場キャラクターに変更が生じることが少なくないが、これらの3作品は、主役キャラクターのみならず、脇役として繰り返し登場するキャラクターも固定的であり、年齢はもちろん、その容姿や性格にもほとんど変化が見られない。このような理由からデータとして適当であるとみなした。
- 2) スネ夫の弟スネツグは、ニューヨークに住んでいるおじさんの養子になっており、日本に帰って来たときは、英語で話している（『スネ夫は理想のお兄さん』40巻収録）。
- 3) Wikipediaによれば、花輪くんは、月曜にバイオリン、火曜にピアノ、水曜にフランス語、木曜にインド哲学、金曜にお茶とお花、土曜に英会話を習っている。
- 4) 花輪くんと風間くんは一人っ子である。また、注2で述べたように、スネ夫には弟が一人いるが外国にいるため、実質一人っ子状態である。このように知性派男子は「一人っ子」であることが多い。一方、野生派男子はきょうだいが多く、長男であることが多い。
- 5) 「健康優良児表彰事業」とは、戦中・戦後において、朝日新聞によってリードされた「全国各地から男女の健康な子ども『小学六年生』を集め、毎年その日本一を決定していた」というメディア・イベントである（高井・古賀（2008））。
- 6) 登場人物が多くなれば、キャラクターの「かぶり」はある程度避けられないものになる。たとえば、『ちびまる子ちゃん』において、関口とはまじは「かぶって」いる部分が多い。実際、『ちびまる子ちゃん』では、連載開始当初は関口が野生派男子としての脇役のポジションを占めていたが、後半でははまじがそれに取って代わった感がある。
- 7) すべての脇役男子が知性派男子か野生派男子のいずれかに属するとは限らない。『クレヨンしんちゃん』のマサオくん（佐藤マサオ）のような「ダメ男」キャラクターや、『ちびまる子ちゃん』の山田や『クレヨンしんちゃん』のポーちゃんのような「天然」キャラクターは、脇役男子として、別のカテゴリーを設定する必要があるかもしれない。
- 8) 以下、用例の引用元の単行本名を、『ドラえもん』第1巻→ドラ1、『ちびまる子ちゃん』第1巻→まる子1、『クレヨンしんちゃん』第1巻→クレしん1、のように省略する。
- 9) 東（1997）によれば、コードスイッチング（code-switching）とは「二言語話者が、文の中であるいは談話の中で二言語を交互にあやつりながら話す話し方」である。知性派男子は、必ずしも二言語話者とは言えないが、少なくとも外国語を学んでいるという点では二言語話者に近い存在である。
- 10) 花輪くんは、注3にあるように、フランス語も学んでいるため、フランス語の単語も用いることもある。
- 11) 『クレヨンしんちゃん』には、レギュラー的な野生派男子の脇役キャラクターは登場しない。しいてあげれば、アクション幼稚園ばら組のチーター（川村やすお）が野性派男子の資質をもった半レギュラーのキャラクターである。しかし、彼のキャラクターとしての立ち位置は、ジャイアンやとはまじとは異なりがある。
- 12) 『当世書生氣質』の主人公である書生・小町田繁爾は次のように話す。

- i) 馬鹿を言ひたまへ。
 ii) 僕はまた彼処の松の下に酔倒れてみたもんだから、前後のことはまるで知らずさ。
 小町田は「たまへ」「僕」「サ」といったことばを用いており、現代の知性派男子のことばづかいと一致した点を見ることができる。
- 13) 「少年」キャラクターとして、戦前では『正チャンの冒険』の正ちゃん、戦後は『長編野球漫画 バット君』のバット君をあげることができる。彼らのことばづかいは書生キャラクターのことばに近い。

資料

- 井上一雄『長編野球漫画 バット君』湘南出版社
 白井儀人『クレヨンしんちゃん』1～50巻 双葉社 アクションコミックス
 浦沢直樹『YAWARA!』1巻 小学館 ビッグコミックス
 樺島勝一(画)・織田小星(作)『正チャンの冒険』小学館
 さくらももこ『ちびまる子ちゃん』1～16巻 集英社 りぼんマスコットコミックス
 さくらももこ『4コマちびまる子ちゃん』1～13巻 小学館
 手塚治虫『手塚治虫文庫全集 鉄腕アトム①』講談社
 坪内逍遙『当世書生気質』岩波書店
 永井豪『マジンガーZ』1巻 中央公論社 中公文庫コミックス版
 藤子・F・不二雄『ドラえもん』1～45巻 小学館 てんとう虫コミックス
 藤子・F・不二雄『ドラえもん プラス』1～5巻 小学館 てんとう虫コミックス
 文藝春秋(編)『ギャグマンガ傑作選』文藝春秋社
 文藝春秋(編)『懐かしのヒーローマンガ大全集』文藝春秋社
 『ちびまる子ちゃん大図鑑』扶桑社
 「クレヨンしんちゃん」公式サイト - FUTABASHA.com <http://www.futabasha/sinchan/>
 Wikipedia「ちびまる子ちゃんの登場人物」

参考文献

- 秋月高太郎(2012 a)「ウルトラマンの言語学」『尚綱学院大学紀要』第63号 p.17-30
 秋月高太郎(2012 b)「動物キャラクターの言語学」『尚綱学院大学紀要』第64号 p.43-57
 秋月高太郎(2013 a)「続・ウルトラマンの言語学」『尚綱学院大学紀要』第65号 p.29-42
 秋月高太郎(2013 b)「『ぜ』の言語学」『尚綱学院大学紀要』第66号 p.11-24
 東照二(1997)『社会言語学－生きた言語のおもしろさにせまる』研究社出版
 小野正弘(編)(2007)『日本語オノマトベ辞典』小学館
 金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
 金水敏(編)(2003)『役割語研究の地平』くろしお出版
 金水敏(2010)「男ことばの歴史－「おれ」「はく」を中心に」中村桃子(編)『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社
 金水敏(編)(2011)『役割語研究の展開』くろしお出版
 クレア・マリイ(2013)『「おネエことば」論』青土社
 現代日本語研究会(編)(2002)『男性のことば・職場編』ひつじ書房
 高井昌史・古賀篤(2008)『健康優良児とその時代－健康というメディアイベント』青弓社